NARITA AIRPORT

成田国際空港株式会社　〒282-8601　千葉県成田市成田国際空港内NAAビル　URL:https://www.naa.jp/

成田空港 ～その役割と現状～

2019年11月　成田国際空港株式会社

成田空港

～その役割と現状～

NARITA AIRPORT 2019

Narita Airport

成田国際空港全景（2019 年3月）

成田国際空港株式会社

経営理念・経営ビジョン

経営理念

NAAは、国際拠点空港としての役割を果たし グローバルな航空ネットワークの発展に貢献する 世界トップレベルの空港を目指します

私たちは、国際交流を支える国際拠点空港として、航空需要の増大への適切な対応、質の高い安全とサービスの実現のため、たゆまぬ努力をしていきます。さらに、グローバルな航空ネットワークの発展に貢献することにより、世界の経済・文化の交流に寄与します。これらの取り組みを積み重ねることにより、すべての方々から「世界トップレベル」と評価していただける空港を目指します。

経営ビジョン

1 安全を徹底して追求し、信頼される空港を目指します

「安全」は基本であり、すべてに優先するものです。私たちは、あらゆることに細心の注意をはらい、空港の安全と安心を徹底して追求します。また、関係者の方々と手を携えながら、航空の安全の確立に取り組みます。これらの行動を通じて、信頼される空港を目指します。

2 お客様の満足を追求し、期待を超えるサービスの提供を目指します

私たちは、常にお客様の視点にたち、満足を感じていただけるサービスを提供します。さらに、独自の発想で、お客様に感動やよろこびを感じていただけるサービスの創造を目指します。

3 環境に配慮し、地域と共生する空港を目指します

私たちは、環境への取り組みを積み重ねることにより、環境にやさしい空港を目指します。また、地域の一員として信頼関係を築きながら、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献する空港を目指します。

4 効率的で透明性のある企業活動を通じ、健全経営とさらなる成長を目指します

私たちは、経営資源を効率的に活用するとともに、法令および社会のルールを守り、公正・透明な企業活動を通じて、健全経営を行います。さらに、現事業を軸としながら新たな事業に積極的に取り組み、成長していく企業となることを目指します。

5 鋭敏な感性を持ち、柔軟かつ迅速な行動で、社会の期待に応えます

私たちは、一人ひとりが常に感性を研ぎすまし、次代を読む眼を大切にします。また、限りない情熱やチャレンジ精神を持ち、柔軟に発想し、迅速な行動に移すことで社会の期待に応えます。

NAA NARITA AIRPORT

はじめに

～世界最高水準の空港を目指して～

成田国際空港株式会社 代表取締役社長　田村 明比古

2019年6月25日に成田国際空港株式会社の代表取締役社長に就任いたしました田村明比古です。どうぞよろしくお願いいたします。

成田空港は、開港以来40年余りにわたって、我が国の表玄関として機能し続けてきました。本年6月7日には、航空機発着回数累計600万回を達成しましたが、この600万回達成はアジア方面を主とした新規就航や増便により、前回の400万回から500万回達成までの期間よりも8か月以上早い、約4年間での達成となりました。さらに11月には開港からの累計航空旅客数が11億人を突破しました。また2019年冬期スケジュール期初時点において、成田空港は海外118都市、国内22都市の140都市と結ばれ、豊富なネットワークによりアジアの拠点空港としての役割を担っております。

日本の周囲を見渡せば、近隣アジアの諸空港では空港機能の拡張計画が進展しており、今後、アジアを中心とする世界の航空需要の高まりと同時に、路線獲得競争がますます激しくなっていくと考えられます。成田空港が今後グローバルな空港間競争の中で勝ち残り、引き続き我が国の表玄関として発展していくためには、ハード、ソフト両面において着実かつ積極的に設備投資を伴うさまざまな取り組みを行っていく必要があると考えています。

最優先の課題は、更なる機能強化の推進です。これは、我が国及び首都圏の国際競争力強化、観光立国の実現に向けて、成田空港が期待される役割を果たしていくために必要不可欠なものです。昨年3月、「成田空港に関する四者協議会」において成田空港の更なる機能強化が合意され、また、本年10月27日からは発着時間を1時間延長した運用を始めることができました。これも、成田空港に携わる全ての関係者のご尽力の賜物と、深く感謝申し上げます。空港の運用に並行して重要な課題の一つであるアクセスについては、今後も早朝、夜間帯の利便性向上のために関係者と知恵を出し合いながら取り組んで参ります。

さらに、11月7日には、2028年度末までに滑走路Cの新設、滑走路Bの延伸等を実施するため、国土交通省に対し航空法に基づく空港等の変更許可申請等を行いました。今後も、これまでの成田空港の歴史の中で醸成されてきた周辺自治体や地域の皆さまをはじめとした関係者の方々との信頼関係を更に深め、空港と地域の共生・共栄策を進めながら、地権者の皆さまに丁寧に説明するなど、更なる機能強化の推進に向け最大限努力していく所存です。

また、空港の運営にあたっては、「安全」がすべての基本であることは言うまでもありません。本年は即位の礼、ラグビーワールドカップなどの国家的イベントがありましたが、来年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等が控えており、何よりも空港の安全、安定運用が高いレベルで求められることを改めて肝に銘じ、自然災害のみならずサイバーテロなどに対する危機管理も含め、空港全体で安全意識の共有と対策の徹底を図って参ります。

しかし、更なる機能強化や、安全対策の充実は、世界の空港間競争に参加するための必要最低限の条件に過ぎません。競争は、その空港が旅客や航空会社など多様なお客さまに対して、どれだけ質の高いサービス、体験、価値を提供できるかをめぐって行われています。今後はマーケティング活動を通じて、何が必要か、何をすべきかをしっかり検討し、お客さまに世界最高水準の旅客体験価値を提供し、選ばれ、愛される空港になるために、デジタル化や最先端技術の活用により、スマートオペレーション、スマートエアポートの実現を目指して参ります。

今後も周辺地域、航空会社など関係者の皆さまとも引き続き連携・協力しながら、成田空港を更に進化させ、我が国の経済や社会の発展に貢献すべく積極的に取り組んで参りますので、皆さま方のより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

NARITA AIRPORT TOPICS 2018-2019

成田空港この1年

2018 11.21

空港カーボン認証レベル3取得

成田空港は日本で初めて空港カーボン認証（*Airport Carbon Accreditation*）レベル3を取得した。これは、空港全体の活動により排出されるCO_2を把握するとともに、主要なステークホルダーとともにCO_2排出量の削減に向けた計画を策定するなどの取り組みが評価されたものである。空港カーボン認証プログラムとは、空港管理者などを会員とする国際機関である国際空港評議会（ACI：Airports Council International）が、空港のカーボン・ニュートラルを目的とし、空港から排出されるCO_2の管理や削減の状況を4段階で評価する制度である。今後も空港カーボン認証プログラムを活用しながら、ステークホルダーとの協力体制を一層強化し、さらなるCO_2排出量の削減を進めていく。

空港カーボン認証の各レベルにおける要求事項

［レベル1（Mapping）］・・・・・・ 空港管理者が排出したCO_2の算定
［レベル2（Reduction）］・・・・・ 空港管理者が排出したCO_2を管理し、削減の達成
［レベル3（Optimisation）］・・・ 空港管理者以外（航空会社など）が排出したCO_2を算定し、空港全体での削減計画の策定
［レベル3+（Neutrality）］・・・・ 空港管理者が排出したCO_2をオフセットし、カーボン・ニュートラルの達成

2019 2.22

東京2020オフィシャルパートナーに

NAAは公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と、「東京2020オフィシャルパートナー契約（空港サービス）」を締結した。これによりNAAは東京2020エンブレムや東京2020マスコットの使用などが可能になり、ターミナル内の装飾や掲示物をはじめ、ウェブサイトなどのデジタルメディア媒体も活用して、東京2020大会の機運醸成と成功に貢献していく。成田空港は日本の空の表玄関として、1978年の開港以来10億人以上のお客さまにご利用いただいているが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたり、NAAは空港サービスのカテゴリーでのオフィシャルパートナーとして重責を担う。

TOKYO 2020

NAA NARITA AIRPORT

TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

東京2020オフィシャルパートナー（空港サービス）

©Tokyo 2020

3.27 成田空港の「スタッフ」がBest Airport賞

成田空港は、SKYTRAX社が実施した旅客サービスに関する国際空港評価のランキング「World Airport Awards 2019」の「World's Best Airport Staff」部門で、第1位を獲得した。World Airport Awardsは、SKYTRAX社が世界中の空港で航空旅客に対して実施しているお客さま満足度調査に基づいて選出される。また、World's Best Airport Staffは、空港のフロントラインでお客さまに接するスタッフ全般のサービスレベルを、態度、親しみやすさ、効率の観点で総合的に評価。NAAは今回の受賞は、成田空港のスタッフが一丸となってサービス向上に取り組んできたことが評価されたものと受け止めている。

3.28 NAAグループ中長期経営構想を発表

2019～2021年度のNAAグループ中期経営計画「飛躍、未来 2021」と、成田空港が目指す空港像である長期経営構想を合わせたNAAグループ中長期経営構想を策定した。同構想では、今後の首都圏航空需要の増加に応えていくのは具体的な拡張計画を有する成田空港であるという認識のもと、成田空港が目指す空港像と、それに向けた足元3カ年の取り組みをまとめた。中期経営計画では、安全最優先という大前提の下、「徹底したお客様第一主義」「激化する空港間競争への挑戦」「デジタル・イノベーション」の3つの主要テーマとそれに基づく6本の戦略方針を掲げ、飛躍的な成長の実現に向けた基盤強化を推進する。

成田空港が目指す空港像【発着回数50万回時イメージ】

※現時点のイメージであり、具体的な整備計画は今後の需要動向や社会情勢等を踏まえながら今後検討

3.29 「国土強靭化貢献団体認証」を取得

NAAは、事業継続と社会貢献に積極的に取り組んでいる企業として「国土強靭化貢献団体認証（レジリエンス認証）」を取得した。社会貢献企業としては、空港初の認証となる。この認証は、事業継続（自助）および社会貢献（共助）に積極的に取り組んでいる企業・団体に与えられるもので、内閣官房が定めたガイドラインに基づき創設された。NAAは「地域と共生する空港」を経営ビジョンに掲げ、豊かで活力がある地域社会の実現に貢献してきた。また、大規模自然災害が発生した際にも被害を最小限に止め早期復旧を果たして安定した空港運用を図るため、事業継続計画に基づく取り組みを進めてきており、こうした取り組みが評価されての認証取得となった。

7.5 新ウランバートル国際空港運営事業に参画

NAAを含む本邦4社（三菱商事、日本空港ビルデング、JALUX、NAA）は、モンゴル国政府と合弁で設立した空港運営会社を通じて同国政府とコンセッション契約を締結し、新ウランバートル国際空港の運営事業に参画することとなった。本件は、2018年8月の海外インフラ展開法の施行を受けてNAAが海外空港の運営を行う第一号案件であり、今後15年間にわたり同空港を運営していくものである。新空港は日本からの円借款を資金に、ウランバートル市中心部から南方約50㎞の場所に建設され、大型機の離着陸が可能な3600m級の滑走路を備えている。今後、新空港における供用準備作業、現空港から新空港への移転作業を経て、2020年上期中の開港を予定している。

8.1 航空科学博物館が大きくリニューアル

成田空港に隣接する航空科学博物館は8月1日の開館30周年に合わせて展示施設を大きくリニューアルするとともに、航空の仕組みを身近に体験できる「体験館」を新設した。NAAもこれに合わせて成田空港ジオラマを中心とするNAAコーナーを大幅に刷新。空港の仕事を学ぶ「空港を支えるプロフェッショナルたち」や空港で働く人たちの制服を疑似体験する「制服で記念撮影」など、子供たちがワクワクする魅力的な新コンテンツを導入した。航空科学博物館は、我が国の民間航空に関する機体・エンジン等の展示やさまざまな体験施設をはじめ、A滑走路を発着する航空機を間近で見られる展望台などが整備されている人気の観光スポット。

9.5 第3ターミナルの1階到着ロビーを拡張

LCC5社が使用している第3ターミナルを、より使いやすく快適にするため、1階到着ロビーを建物の外側に張り出す形で約1600㎡拡張し、エントランスを設けた。これにより、出発されるお客さまは2階、到着されたお客さまは1階に動線を分離でき、2階出発ロビーの混雑緩和が図れる。拡張に合わせて、バス乗車券の発券カウンターを2階出発ロビーから1階到着ロビーに移設。さらに、これまで第3ターミナルにはなかった手荷物宅配の受付カウンターを新設したほか、Wi-Fiレンタルカウンターを増設。また、ユニバーサルデザイン対応のエレベーターを設置する等、多くのお客さまの利便性向上を図った。

9.17 自動手荷物預け機を本格導入

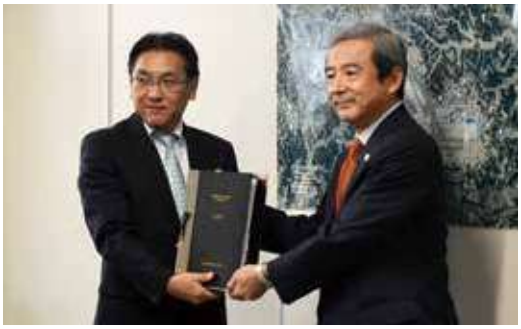
成田空港ではファストトラベルを推進しており、その一環として9月17日から第1ターミナル南ウイングで、自動手荷物預け機の本格運用を開始した。今後も順次、全てのターミナルに展開し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会までに合計72台を導入する計画である。これに合わせて、ターミナル出発ロビーの主要動線上に、自動チェックイン機と自動手荷物預け機を集中配置するエリアを設け、セルフサービス型の新しい搭乗手続き「Smart Check-in」について促進を図る考えだ。旅客にとっては、待ち時間の短縮によるストレス軽減、空港にとっては、既存施設を最大限に活用することによる処理能力向上、航空会社にとっては、定時運航率向上と省力化のメリットが期待される。

10.27 A滑走路の発着時間を24時までに延長

国、千葉県、空港周辺9市町、NAAの四者で構成される「成田空港に関する四者協議会」での確認に基づき、A滑走路（4000m）の発着時間が、2019年冬期スケジュールがスタートする10月27日から1時間延長され、24時までとなった。これに合わせてNAAはネットワークのさらなる拡充に向けて、この時間帯へのフライトの誘致を進めた結果、より遅い時間に発着する定期便が多数設定された。旅客ターミナルでは店舗の営業やサービスの提供時間を延長。バス・鉄道などの交通機関も、成田空港を夜間に発着する航空便に対応するダイヤでの空港アクセスを設定するなどで利便性向上を図ったことから、成田空港を利用する旅の選択肢が大きく広がった。

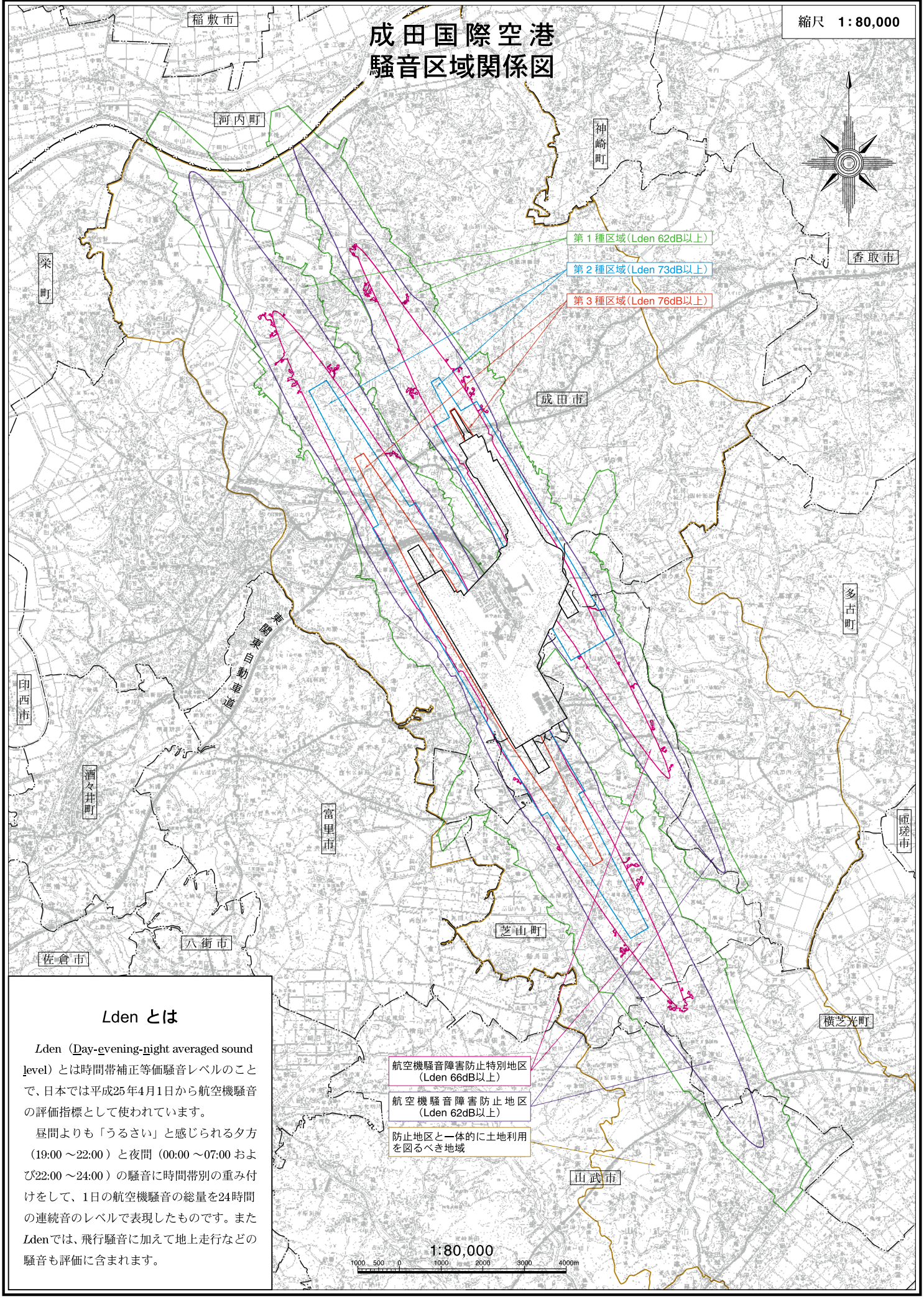
11.7 「更なる機能強化」で航空法の変更許可申請

NAAは、新たな滑走路を整備することなどにより、空港の発着容量を拡大させるとともに、より利便性の高い空港を目指す「成田空港の更なる機能強化」について、航空法に基づく空港等の変更許可申請等を国土交通大臣あてに行った。B滑走路は北側に1000m延伸して3500m、その南側に長さ3500mのC滑走路を新設することとし、2028年度末までの完成を目指す。空港の敷地面積はこれまでより1099ha広い2297haとなる。「成田空港の更なる機能強化」は、日本および首都圏の国際競争力の強化、観光先進国の実現、地域の発展のために必要不可欠な施策であることから、この整備を通じて、地域と空港の共生・共栄を実現できるように、精一杯努力していく。



成田国際空港
騒音区域関係図

縮尺　1：80,000



*L*den とは

*L*den（Day-evening-night averaged sound level）とは時間帯補正等価騒音レベルのことで、日本では平成25年4月1日から航空機騒音の評価指標として使われています。

昼間よりも「うるさい」と感じられる夕方（19:00 ～22:00 ）と夜間（00:00 ～07:00 および22:00 ～24:00 ）の騒音に時間帯別の重み付けをして、1日の航空機騒音の総量を24時間の連続音のレベルで表現したものです。また*L*denでは、飛行騒音に加えて地上走行などの騒音も評価に含まれます。

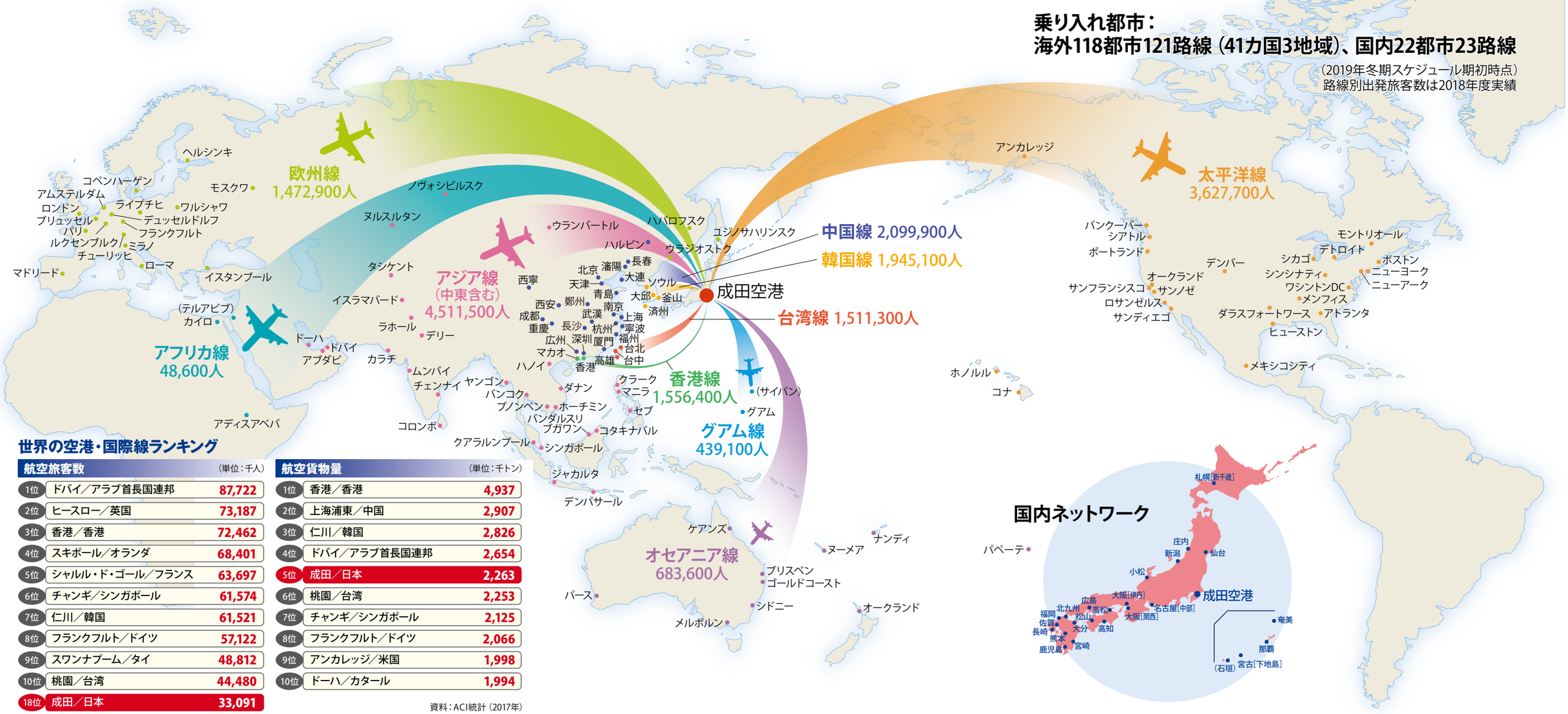
平成25年8月作成

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。（承認番号　平22関複、第 170 号）」

データで見る 世界の都市を結ぶ成田空港 ［就航路線図と路線別出発旅客数］

乗り入れ都市：
海外118都市121路線（41カ国3地域）、国内22都市23路線

（2019年冬期スケジュール期初時点）
路線別出発旅客数は2018年度実績



国内ネットワーク

世界の空港・国際線ランキング

航空旅客数（単位：千人）

1位	ドバイ／アラブ首長国連邦	87,722
2位	ヒースロー／英国	73,187
3位	香港／香港	72,462
4位	スキポール／オランダ	68,401
5位	シャルル・ド・ゴール／フランス	63,697
6位	チャンギ／シンガポール	61,574
7位	仁川／韓国	61,521
8位	フランクフルト／ドイツ	57,122
9位	スワンナプーム／タイ	48,812
10位	桃園／台湾	44,480
18位	成田／日本	33,091

航空貨物量（単位：千トン）

1位	香港／香港	4,937
2位	上海浦東／中国	2,907
3位	仁川／韓国	2,826
4位	ドバイ／アラブ首長国連邦	2,654
5位	成田／日本	2,263
6位	桃園／台湾	2,253
7位	チャンギ／シンガポール	2,125
8位	フランクフルト／ドイツ	2,066
9位	アンカレッジ／米国	1,998
10位	ドーハ／カタール	1,994

資料：ACI統計（2017年）

乗り入れ航空会社（106社）

※サイパン線、石垣線、テルアビブ線は2019年冬期スケジュール期中に新規就航予定

●第1ターミナル北ウイング

エアカレドニアインターナショナル（ACI）フランス
エアロフロート・ロシア航空（AFL）ロシア
エールフランス航空（AFR）フランス
アエロメヒコ航空（AMX）メキシコ
アリタリア-イタリア航空（AZA）イタリア
香港航空（CRK）香港
四川航空（CSC）中国
中国南方航空（CSN）中国
厦門航空（CXA）中国
デルタ航空（DAL）米国
エルアル イスラエル航空（ELY）イスラエル
エティハド航空（ETD）UAE
ガルーダ・インドネシア航空（GIA）インドネシア
ベトナム航空（HVN）ベトナム
ジンエアー（JNA）韓国
大韓航空（KAL）韓国
KLMオランダ航空（KLM）オランダ
ロイヤルブルネイ航空（RBA）ブルネイ
オーロラ航空（SHU）ロシア
サウディア（SVA）サウジアラビア
タイ ライオンエア（TLM）タイ

●第1ターミナル南ウイング

アシアナ航空（AAR）韓国
エアプサン（ABL）韓国
エア・カナダ（ACA）カナダ
エアージャパン（AJX）日本
全日本空輸（ANA）日本
ニュージーランド航空（ANZ）ニュージーランド
エアソウル（ASV）韓国
中国国際航空（CCA）中国
山東航空（CDG）中国
深圳航空（CSZ）中国
ルフトハンザドイツ航空（DLH）ドイツ
エチオピア航空（ETH）エチオピア
エバー航空（EVA）台湾
IBEXエアラインズ（IBX）日本
LOTポーランド航空（LOT）ポーランド
MIATモンゴル航空（MGL）モンゴル
エジプト航空（MSR）エジプト
南アフリカ航空（SAA）南アフリカ共和国
スカンジナビア航空（SAS）スカンディナビア・ネットワーク
シンガポール航空（SIA）シンガポール
スイス インターナショナル エアラインズ（SWR）スイス
タイ国際航空（THA）タイ
ターキッシュ エアラインズ（THY）トルコ
ユナイテッド航空（UAL）米国
ウズベキスタン航空（UZB）ウズベキスタン
ヴァージン・オーストラリア（VAU）オーストラリア

●第2ターミナル

アメリカン航空（AAL）米国
エア インディア（AIC）インド
スリランカ航空（ALK）スリランカ
マカオ航空（AMU）マカオ
ブリティッシュ・エアウェイズ（BAW）英国
バンコク・エアウェイズ（BKP）タイ
チャイナエアライン（CAL）台湾
セブパシフィック航空（CEB）フィリピン
中国東方航空（CES）中国
海南航空（CHH）中国
キャセイパシフィック航空（CPA）香港
吉祥航空（DKH）中国
イースター航空（ESR）韓国
ファイアーフライ（FFM）マレーシア
フィンランド航空（FIN）フィンランド
フィジー・エアウェイズ（FJI）フィジー
ハワイアン航空（HAL）米国
香港エクスプレス（HKE）香港
イベリア航空（IBE）スペイン
日本航空（JAL）日本
LATAM Airlines（LAN）チリ
マレーシア航空（MAS）マレーシア
マンダリン航空（MDA）台湾
ノックスクート（NCT）タイ
フィリピン航空（PAL）フィリピン
パキスタン国際航空（PIA）パキスタン
カンタス航空（QFA）オーストラリア
カタール航空（QTR）カタール
S7航空（SBI）ロシア
LATAM Airlines（TAM）ブラジル
タイ・エアアジアX（TAX）タイ
スクート（TGW）シンガポール
エア タヒチ ヌイ（THT）フランス
タイガーエア台湾（TTW）台湾
ティーウェイ航空（TWB）韓国
エミレーツ航空（UAE）UAE
ベトジェット（VJC）ベトナム
SCAT航空（VSV）カザフスタン
エアアジアX（XAX）マレーシア

●第3ターミナル

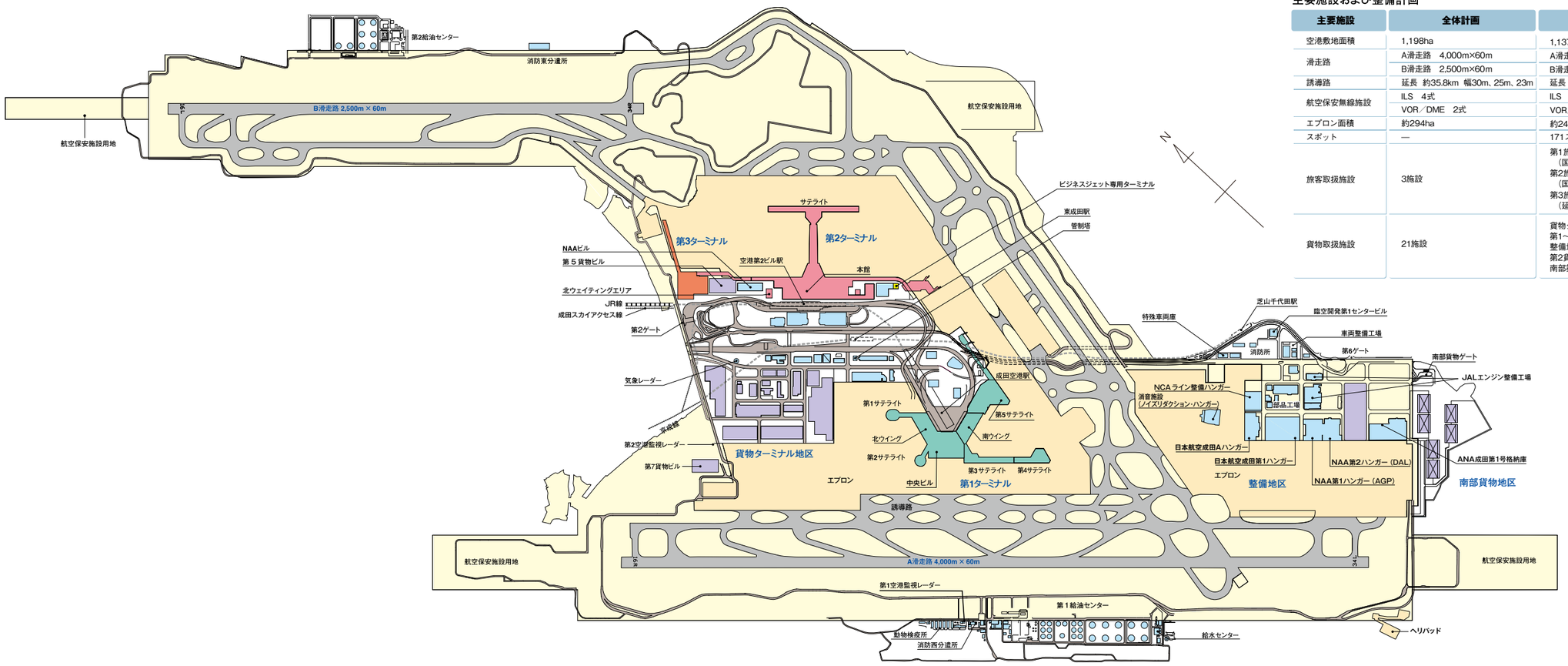
ピーチ・アビエーション（APJ）日本
春秋航空（CQH）中国
チェジュ航空（JJA）韓国
ジェットスター・ジャパン（JJP）日本
ジェットスター航空（JST）オーストラリア
Spring Japan（SJO）日本

●貨物便のみ

エアブリッジカーゴ（ABW）ロシア
エアホンコン（AHK）香港
アエロロジック（BOX）ドイツ
中国国際貨運航空（CAO）中国
中国貨運航空（CKK）中国
カリッタエア（CKS）米国
カーゴルックス（CLX）ルクセンブルク
フェデラルエクスプレス（FDX）米国
ルフトハンザカーゴ（GEC）ドイツ
アトラスエア（GTI）アメリカ
カーゴルックスイタリア（ICV）イタリア
日本貨物航空（NCA）日本
ポーラーエアカーゴ（PAC）米国
ユナイテッドパーセルサービス（UPS）米国

2019年冬期スケジュール期初時点

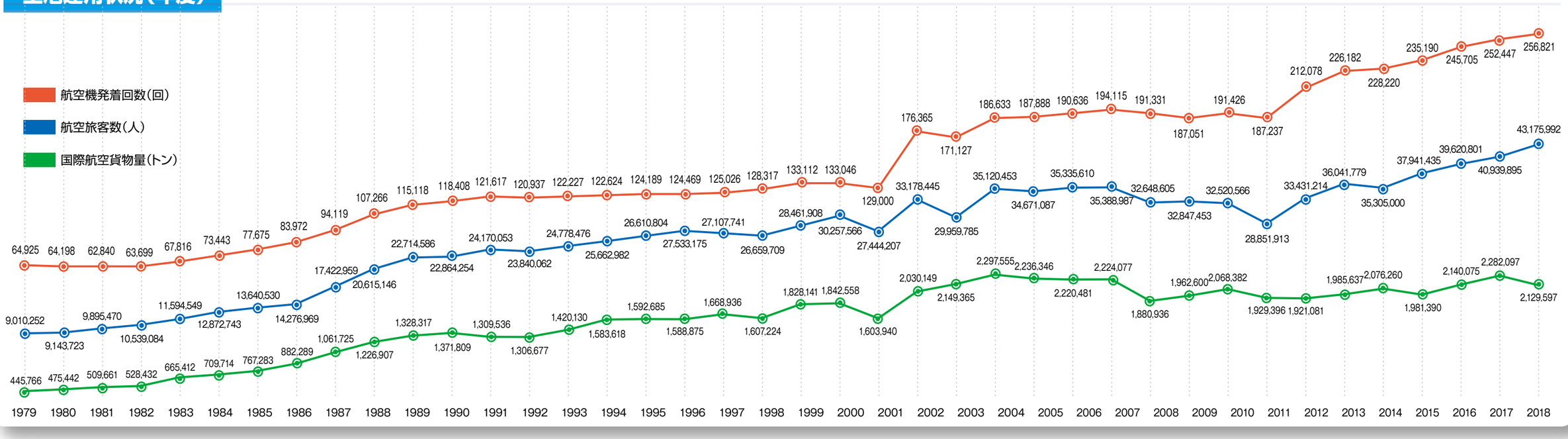
施設配置図



主要施設および整備計画

主要施設	全体計画	運用中の施設（2019年10月末現在）
空港敷地面積	1,198ha	1,137ha
滑走路	A滑走路　4,000m×60m	A滑走路　4,000m×60m
	B滑走路　2,500m×60m	B滑走路　2,500m×60m
誘導路	延長　約35.8km　幅30m、25m、23m	延長　約31.2km　幅30m、25m、23m
航空保安無線施設	ILS　4式	ILS　4式
	VOR／DME　2式	VOR／DME　2式
エプロン面積	約294ha	約243ha
スポット	—	171スポット
旅客取扱施設	3施設	第1旅客ターミナルビル （国内線ターミナルビルを含む）（延床面積約46.3万㎡） 第2旅客ターミナルビル （国内線ターミナルビルを含む）（延床面積約39.1万㎡） 第3旅客ターミナルビル （延床面積約12.3万㎡）
貨物取扱施設	21施設	貨物ターミナルビルなど（延床面積約28.6万㎡） 第1～第7貨物ビル、日航貨物ビル、輸入共同上屋ビル、 整備地区貨物上屋、第1貨物代理店ビル、 第2貨物代理店ビル、貨物管理ビル、燻蒸倉庫、 南部第1～第6貨物ビル、その他

空港運用状況（年度）



成田空港

～その役割と現状～

NARITA AIRPORT 2019

CONTENTS

成田国際空港株式会社「経営理念・経営ビジョン」 2
はじめに 3
NARITA AIRPORT TOPICS 2018-2019 4
成田国際空港騒音区域関係図 8
データで見る 世界の都市を結ぶ成田空港 9
施設配置図・空港運用状況 10
CONTENTS 12

INTRODUCTION

中期経営計画 飛躍、未来 2021 17

2019～2021年度 NAAグループ中期経営計画
飛躍、未来 2021 18

戦略方針
1.世界最高水準の安全性と安定かつ高効率運用の徹底追求 19
2.空港機能の強化と地域との共生・共栄 20
3.空港競争力の源泉である航空ネットワークの徹底強化 20
4.徹底したお客様第一主義に根ざした世界最高水準の旅客体験価値の創造 21
5.旅客ニーズの変化に迅速に対応した魅力ある商環境の創出 21
6.持続的な成長に向けた空港競争力の強化 22

成田空港の更なる機能強化

冬期スケジュールからA滑走路の発着時間が延長 24
更なる機能強化へ航空法の変更許可申請も

特集

世界最高水準の空港を目指して 27

東京2020のオフィシャルパートナーに 28
東京2020大会の機運醸成と成功に貢献

ファストトラベル推進で利便性をさらに向上 30
OneID導入などで手続き所要時間を短縮

イノベーションの推進で生産性を向上 32
デジタル技術でスマートオペレーション

第3ターミナルの1階出発ロビーを拡張 34
動線分離で混雑緩和、利便性も向上

世界最高水準の旅客体験価値の創造へ 36
ユニバーサルデザインをさらに充実

インセンティブ制度を拡充 37
「朝発ボーナス」の導入等で新規就航が増加

第1章 成田空港の運用状況 …… 39

1 2018年度運用状況 …… 40
① 航空機発着回数 …… 40
② 航空旅客数 …… 43
③ 航空貨物・取扱額 …… 45
④ 給油量 …… 46
2 成田空港への乗り入れ航空会社と発着回数 …… 48
① 定期航空会社別スケジュール 発着回数 …… 48
3 東アジアの国際拠点空港としての成田空港 …… 51
① 発着枠の拡大 …… 51
② 国内・世界における成田空港の位置づけ …… 51

第2章 成田空港の施設 …… 55

1 施設の現状と計画 …… 56
① 基本施設 …… 56
② ターミナル施設 …… 58
③ 貨物ターミナル施設 …… 68
④ 給油施設 …… 71
⑤ 駐車場施設 …… 72
⑥ そのほかの施設 …… 73

第3章 成田空港の管理・運営 …… 77

1 成田空港の危機管理体制 …… 78
① 安全への取り組み …… 78
② 高まる航空保安対策の重要性 …… 79
③ NAAグループ事業継続計画（BCP） …… 80
④ 地震など災害への対策 …… 81
⑤ 施設の管理体制 …… 81
⑥ 緊急医療体制 …… 82
⑦ 災害訓練 …… 84
⑧ セキュリティー強化へIDカードをIC化 …… 84
⑨ 入場ゲートのノンストップ化 …… 85
2 お客さまの視点に立った空港づくり …… 86
① CSへの取り組み …… 86
② 楽しい成田空港をつくるイベントの実施 …… 87
③ SMART Airport NARITA …… 88
④ デジタルサイネージの導入 …… 90
⑤ お客さまへの分かりやすいご案内 …… 92
⑥ 増加する訪日外国人旅客への施策 …… 93
⑦ 充実する空港アクセス …… 97
3 世界の空港の一員として …… 99
① ACI、EAAAなどの活動 …… 99
② 昨今の国際会議とNAAの役割 …… 99
③ 海外空港との協力関係の締結 …… 100
④ 海外空港事業 …… 101
4 完全民営化の実現に向けた体制整備 …… 103
① 株式上場に向けて …… 103
② NAAの「信用力」を裏付ける格付け …… 103
5 マーケティング強化に向けて …… 104
① エアライン営業部によるマーケティング強化 …… 104
② 成田空港活用協議会 …… 106
6 主な広報業務（2018年12月～2019年11月） …… 108

CONTENTS

第4章 成田空港のあゆみ 113

1 成田空港開港の経緯 114
①航空審議会の答申 114
②空港の位置決定 114
③NAAの設立 115
④基本計画の指示 115
⑤用地取得の経緯 115
⑥燃料輸送体制の確保 116
⑦開港を迎えて 117
⑧本格パイプラインの完成 118
2 暫定平行滑走路の運用開始まで 118
①整備促進に高まる地域の声 118
②平行滑走路建設の新たな方針 119
③工事実施計画の変更と申請 119
④32年ぶりの公聴会開催 120
⑤暫定平行滑走路建設の着工 121
⑥暫定平行滑走路工事の完成 121
⑦暫定平行滑走路の運用開始 122
3 2500m平行滑走路の整備 124
①長年の懸案だった2500m化 124
②2006年9月に2500m化北伸整備着工 124
③2009年10月22日から運用開始 124
④記念式典を開催 125
⑤新誘導路など各種施設を整備 126
⑥発着回数は両滑走路計で22万回へ増大 126
4 年間空港容量30万回へ 127
①新誘導路など各種施設を整備 127
5 カーフュー（離着陸制限）の弾力的運用の実施 130
①カーフュー（離着陸制限）の弾力的運用 130
②カーフューの弾力的運用案を地域へ提案 130
③弾力的運用について地域と合意 130
6 用地交渉の経緯と現況 131
①開港後～円卓会議まで 131
②円卓会議～暫定平行滑走路運用開始 132
③暫定平行滑走路運用開始後 132
7 NAAの民営化 133
①空港名も「成田国際空港」に改称 133

第5章 成田空港問題の推移 135

1 シンポジウムおよび円卓会議の経緯 136
①開港までの状況 136
②成田空港問題シンポジウムの経緯 136
③成田空港問題円卓会議の経緯 137
2 円卓会議終了後の展開 139
①円卓会議後のNAAの取り組み 139
②共生委員会などの設置 139
3 新しい「共生スキーム」への移行 140
①地域との共生に貢献した「共生委員会」 140
②新共生スキームへ発展的解消 140
③成田空港地域共生・共栄会議の設置 141
4 歴史伝承プロジェクトの展開 142
①常設展示施設を整備・運営 142

第6章 空港と地域の共生を目指して …… 145

1 地域と共生する空港づくり大綱 …… 146
① 地域との連携を密に取り組み …… 146
2 騒防法および騒特法の概要 …… 146
① 騒防法 …… 146
② 騒特法 …… 147
3 環境対策などの実施状況 …… 148
① 住宅防音工事 …… 148
② 学校、共同利用施設などの公共施設防音工事 …… 149
③ 移転補償など …… 150
④ 電波障害対策 …… 150
⑤ 落下物対策 …… 150
⑥ 航空機エンジン試運転時の騒音対策 …… 151
⑦ 騒音対策委員会 …… 151
4 環境の監視 …… 152
① 航空機騒音 …… 152
② 空港場内地上騒音など …… 152
③ 飛行コース …… 153
④ 大気質 …… 153
⑤ 水質 …… 153
⑥ 地域環境委員会 …… 153
⑦ 環境情報公開システム …… 153
5 周辺地域発展のために …… 154
① 地域経済への貢献 …… 154
② 成田財特法による公共施設の整備 …… 155
③ 成田国際空港周辺対策交付金 …… 155
④ 航空機騒音に配慮した計画的な土地利用 …… 156
⑤ 農業振興による土地利用 …… 156
⑥ そのほかの土地利用 …… 156
⑦ 成田空港周辺の地域づくりに関する「基本プラン」及び「(仮称)実施プラン」 …… 156
⑧ 地域の振興策 …… 156
⑨ 地域相談センター …… 158
⑩ 千葉県の総合計画「次世代への飛躍 輝け!ちば元気プラン」 …… 159
⑪ 空港周辺農業の再生への協力 …… 159
6 エコ・エアポート基本計画 …… 162
① 地球的視野に立った循環型の空港づくり …… 162

第7章 財務状況 …… 171

1 2019年3月期連結決算 …… 172
① 連結損益計算書 …… 172
② 連結貸借対照表 …… 173
③ キャッシュ・フローの状況 …… 174
④ セグメント別概況 …… 175

CONTENTS

資料編1 177

1 円卓会議の合意事項 178
2 隅谷調査団所見（抄）～成田空港問題円卓会議の終結にあたって～ 179
3 地域と共生する空港づくり大綱 182
4 成田新法適用物件位置図 189
5 ゲリラ事件発生状況 189
6 未買収地の現状 190
7 容量拡大（30万回）に係る確認書 191
8 成田空港の離着陸制限（カーフュー）の弾力的運用に関する確認書 192
9 成田国際空港の更なる機能強化に関する確認書 193
10 成田空港内従業員実態調査 196
11 成田空港へのアクセス交通実態調査 197
12 成田空港周辺のホテル 198
13 成田空港周辺自治体の歳入総額および固定資産税額の推移 199
14 成田空港周辺自治体の人口および就業者人口の推移 199

資料編2 201

1 NAAの組織・業務内容など 202
2 成田国際空港株式会社法 204
3 NAAの歩みと共生・共栄の経緯（1966年～2019年10月） 205
4 成田空港における達成記録の一覧 229
5 成田空港運用状況（年度別） 230
6 成田空港への定期乗り入れ航空会社増減 236